

令和2年度 一貫校研修

小野連携型小中一貫校

I 研究主題

学びをもとに、主体的に判断・表現できる子供の育成
—小野の子供の強みを伸ばす指導の工夫を通して—

II 主題設定の理由

小野小学校と小野中学校は共に連携型小中一貫校として「夢に向かってかがやく子の育成」に向けて、「9年間の学びを大切にす学校」を掲げ、教育課程のつながりを意識した教科指導の工夫や授業改善等について研究を進めてきた。

昨年度、小野小学校では、「自ら学びに向かい、共によりよく考える児童」という主題を設定し、教職員全体が「国語チーム」「算数チーム」「道徳チーム」に分かれて、それぞれの手立てを生かした授業改善に取り組んできた。チームで研修を行うことにより、授業づくりや授業研究においてさまざまな視点や考え方を共有したり、教職経験年数の違いによる多くの発見があったりするなどして、個々の授業改善を図ることができ、標準学力調査の結果、国語や算数は一昨年度よりも正答率が向上した。

小野中学校では、「学びをもとに、主体的に判断・表現できる生徒の育成—授業スタンダードにおけるまとめ・振り返りの充実と個に応じたつなぎ教材の活用を通して—」という主題・副主題を設定し、各教科における小中9年間でつきたい力を教科等指導の重点として明確にし、授業実践を行った。年度始めの小中合同研修で国語・数学・道徳班に分かれて授業公開・授業研究を行い、その後、4グループに分かれての一人1研究授業・授業研究会につなげた。授業実践をまとめ、全体で共有することで、本年度の成果と次年度への課題が明らかになった。成果としては、生徒対象のアンケート結果の「授業のわかりやすさ」の向上、標準学力調査の結果では、国語、理科、英語の思考・判断・表現の観点で前年度からの向上が見られた。課題としては、授業の振り返りまでを確実にし、学習内容が定着したかを見取って授業改善をしていく必要があることが明らかになった。

小中合同研修を通し、小野の子供たちの特徴を話し合う中で、自主性がやや弱いという課題があるものの、共通して判断力・表現力の高さが見られることが共通の認識としてできた。

そこで今年度から、小野小学校・小野中学校が一貫校としてより一層協働し、小野の子供たちの強みである表現力を伸ばす指導の工夫をすることで、子供たちが学びをもとに、より主体的に判断・表現することができると考え、小野連携型小中一貫校としての研究主題を設定し、取り組むこととした。

III 研究のねらい

計画訪問を核とした一貫校研修を計画的に実施するとともに、それぞれの学校における授業研究の一層の充実を図り、教職員全体の授業力を向上させること、小中の課題や成果を共有することを通して、小野の子供たちの判断力・表現力をさらに向上させる。

IV 研究の内容と方法

1 目指す子供の姿について

「学びをもとに、主体的に判断・表現できる子供」の姿とは、以下の通りである。

- ・ 子供たちが、学びの9年間のタテのつながりや、各教科等横断的なヨコのつながりを意識し、既習事項を活用して問題解決的な学習に取り組んでいる姿
- ・ 問題解決に向けて考えを練り上げていく学習活動の過程で、判断力・表現力を高めている姿

2 研究内容

(1) 「小野の〇〇」（教科等指導の重点）を踏まえた授業改善

小野の子供の強みを伸ばす「小野の〇〇」に基づいて、学習のスタンダードのステップ2「課題をじっくり」、ステップ4「振り返りをみっちり」の場面において必要な手立てを設定した授業を見合ったり語ったりし、それを全体に広げることを通して、教職員全体の授業力向上を目指し、子供の判断力・表現力を向上させる。

(2) 子供の変容に基づく授業研究

授業づくりの段階では、その学習における「小野の〇〇」を具体化した目指す子供の姿を明確に設定し、その姿へ子供を変容させるために必要なめあてや、「課題をじっくり」や「振り返りをみっちり」での学習活動を工夫して設定し、実際に表れた子供の姿と比較して授業研究を行う。

(3) 授業スタンダードにおける「まとめ・振り返り」の充実

目指す子供の姿が表れるのはステップ3「まとめをしっかりと」やステップ4「振り返りをみっちり」であることが多いことから、まとめやふりかえりの時間を充実させる。

3 研究方法

【小野小学校】

新学習指導要領の本格実施年度となり、新学習指導要領における各教科・領域の学習について実践を通して理解を深め、全教職員で共通理解し、授業力を向上させる必要があるため、全教職員が各教科・領域のチームに分かれ、互いの授業検討や授業研究会を伴った研究授業を行うことで、手立ての有効性を検証する。

【小野中学校】

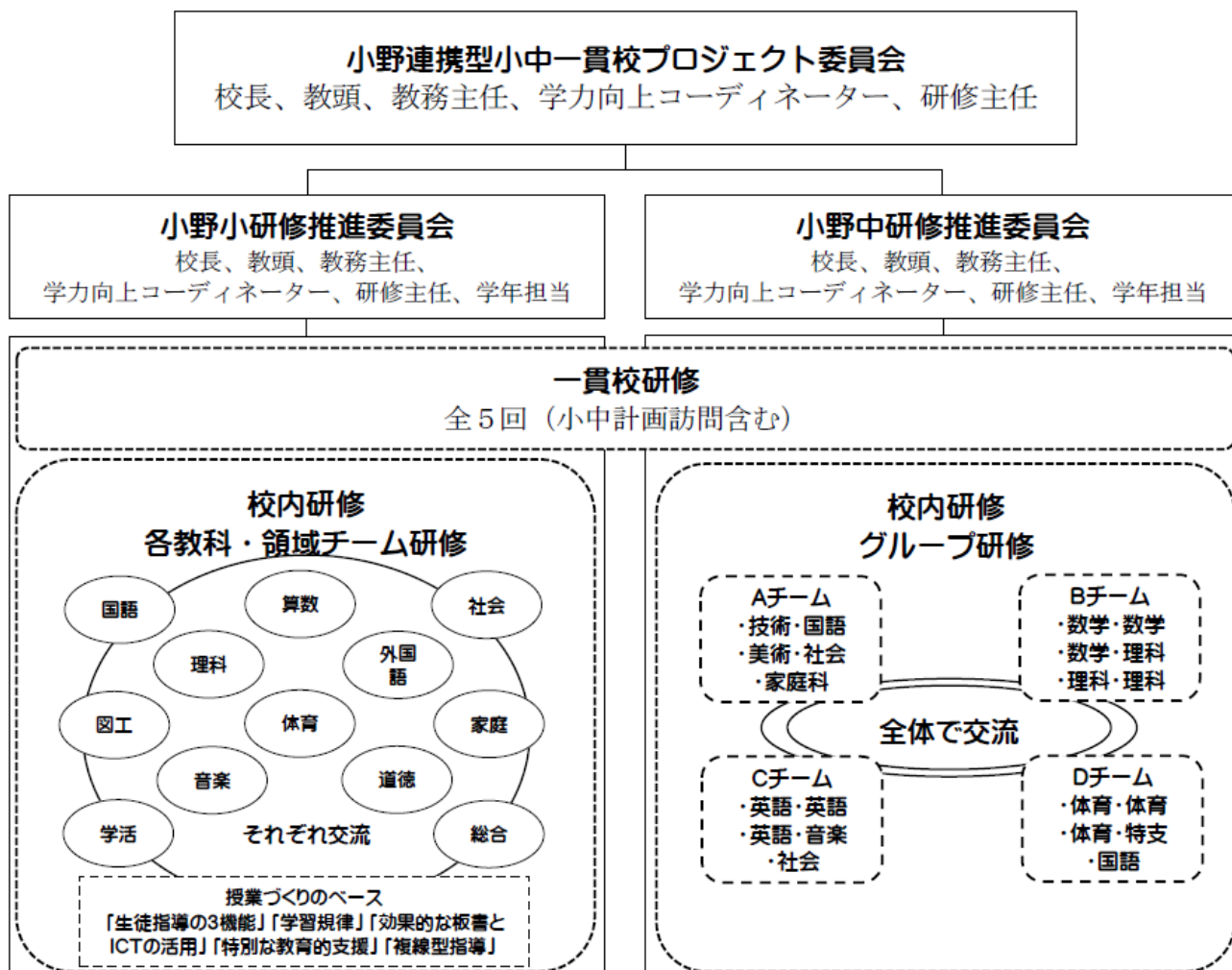
昨年度の課題を克服するため、全教職員が「授業スタンダードにおけるまとめ・振り返りの充実」を意識した授業改善に努めることと、昨年度の4グループを再編制し、リーダーを中心に若手教職員の授業づくりや授業検討会・研究会を伴った研究授業を行うことで、手立ての有効性を検証する。

【共通】

- ・ チーム・グループごとの研究内容を全教職員に発信し、意見を交流する場を設定して、それぞれの研究内容を他のグループにも伝え、広げられるようにする。
- ・ 小学校と中学校の計画訪問を全員で参観し、授業研究会に参加することで、研究を客観的に見て修正したり、方向性を定めたりすることができるようにする。
- ・ 研究授業だけではなく、普段の授業からいつでも気軽に授業を見合えるような雰囲気・環境づくりをし、若手教員がさまざまな教科・指導法にふれる機会をつくる。

V 研究の組織・構想図

小野連携型小中一貫校 研修組織図



VI 研修計画

一貫校研修		
4月	小野連携型小中一貫校プロジェクト委員会①	
4月30日(木)	小野一貫校研修①	全体計画・方針確認
7月6日(月)	小野一貫校研修②	小野中計画訪問・授業研究会
8月21日(金)	小野一貫校研修③	講師による講習・交流会
夏季休業中	小野連携型小中一貫校プロジェクト委員会②	
10月15日(木)	小野一貫校研修④	小野小計画訪問・授業研究会
1月26日(月)	小野一貫校研修⑤	今年度の成果と課題、来年度の方向性
年度末	小野連携型小中一貫校プロジェクト委員会③	

小学校

- 4月2日(火) 研修全体計画の提示
校務分掌の決定(学年会)
- 4月9日(木) 教科別目指す児童像の確認
手立てについて
- 4月24日(木) 全体計画・方針確認
- 6月22日(月) 一人一授業実施計画づくり
業務改善チェック
- 2学期中 一人一授業公開
(時期はチーム会議で決定)
- 10月26日(月) 計画訪問の振り返り
業務改善チェック
- 11月30日(月) チーム別研修
- 12月21日(月) 一人一授業まとめについて
- 1月25日(月) 成果の共有・振り返り
- 3月15日(月) 来年度の研修に向けて

中学校

- 4月2日(火) 研修全体計画の提示
校務分掌の決定(学年会)
- 4月15日(水) 全体計画・方針確認
手立てについて
- 6月22日(月) グループ別授業計画づくり
- 6月中旬 第1回生徒学習アンケート
職員校内研修アンケート実施
- 2学期中 グループ研修授業公開
(時期はグループ会議で決定)
- 9月14日(月) 授業スキルアップ講義・交流会等
- 11月16日(月) 授業スキルアップ講義・交流会等
- 12月7日(月) グループ研修まとめ交流会
- 1月下旬 第2回生徒学習アンケート
職員校内研修アンケート実施
- 2月15日(月) 来年度の研修に向けて